

じんぶん堂 2周年記念ブックフェア

わたしを知る 世界を知る



2nd Anniversary

じんぶん堂

powered by 好書好日

人文書の魅力を伝えるウェブサイト「じんぶん堂」はおかげさまで2周年を迎えました。コロナ禍や進むデジタル社会のもと、人間が人間らしくあるために、知ること、考えること、自分で判断して表現する「人文知」の大切さが改めて注目されています。人文書を手にとってみませんか？ 世界の景色が少し変わるかもしれません。

<https://book.asahi.com/jinbun/>



じんぶん堂は出版社と朝日新聞社による、人文書の魅力を伝えていくプロジェクトです。フェア参加社：明石書店、朝倉書店、幻戯書房、作品社、春秋社、晶文社、創元社、筑摩書房、日本実業出版社、白水社、平凡社



きたむら・さえ

北村紗衣さん

武蔵大学人文学部英語英米文化学科准教授。東京大学で学士号及び修士号を取得後、2013年にキングズ・カレッジ・ロンドンにて博士課程を修了。専門はシェイクスピア、舞台芸術史、観客研究、フェミニスト批評。著書に『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』（書肆侃侃房）、『シェイクスピア劇を楽しんだ女性たち』（白水社）、『批評の教室 チョウのように読み、ハチのように書く』（ちくま新書）、共訳にヘンリー・ジェンキンス『コンヴァージエンス・カルチャー』（晶文社）がある。

おすすめの一冊

大学教授のように小説を読む方法 増補新版

トーマス・C・フォスター（著）／矢倉尚子（訳）

出版社：白水社

ISBN：9784560097304

定価：3,850円



タイトルどおり、大学で教えたり、論文を書いていたような研究者はふだんどういうふうに文学を楽しんでいるのか、読解時の目の付け所をいろいろと教えてくれる本です。作品を読む時に意外なところで必要になる古典の知識から、あやしんで探ったほうが良い比喩や象徴の見つけ方まで、丁寧にやさしく説明してくれます。自分たちで読書会を開きたいと思った時にこういう本が1冊手元にあると、とても心強いと思います。

北村さんの著書



批評の教室——チョウのように読み、ハチのように書く

北村紗衣（著）

出版社：筑摩書房

ISBN：9784480074256

定価：902円

「精読する、分析する、書く」の3ステップを徹底攻略！ チョウのように軽いネットワークで理解し、ハチのように鋭い視点で読み解く方法を身につけましょう。



イラスト：塩川いづみ

どくしょざる

読書猿さん

ブログ「読書猿 Classic: between/beyond readers」主宰。1997年からメルマガを始め、2008年にブログ「読書猿 Classic」を開設。ギリシャ時代の古典から最新の論文、個人のTwitterの投稿まで、先人たちが残してきたありとあらゆる知を「独学者の道具箱」「語学の道具箱」「探しものの道具箱」などのカテゴリにまとめ、独自の視点で紹介。著書に『アイデア大全』『問題解決大全』（共にフォレスト出版）、『独学大全』（ダイヤモンド社）。

おすすめの一冊

岩波講座 世界歴史 第1巻 世界史とは何か

編集委員：荒川正晴、大黒俊二、小川幸司、木畑洋一、
富谷至、中野聡、永原陽子、林佳世子、弘末雅士、安村直己、吉澤誠一郎

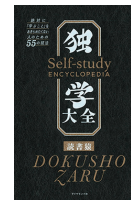
出版社：岩波書店

ISBN：9784000114110 定価：3,520円



異なる社会、異なる文化を生きる人達と、我々は助け合えぬ違いがいつか合点して暮らしている。同意できないまでも対話を続け、互いの立場と行動を理解するためには、互いの歴史を知るだけでは不十分だ。過去を参照しながら行動し、互いの記憶を更新し、毎日未来に一步を踏み出しながら次の歴史を作っている。そうした我々の歴史実践を歴史学の最前線へと誘う、四半世紀ぶりに刊行開始された『岩波講座 世界歴史』の第一冊。

読書猿さんの著書



独学大全 絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための55の技法

読書猿（著）

出版社：ダイヤモンド社

ISBN：9784478108536

定価：3,080円

ギリシア哲学から最新の論文まで、あらゆる「知の先人」から学んだ内容を、著者独自の視点で55の技法にまとめた「勉強法の百科事典」。独学者のバイブル誕生。

あかししょてん

明石書店



創業者の出身地である兵庫県明石市から社名をとり1978年に創業。人権の尊重を基本理念として出版活動をおこなっています。webサイトは<https://www.akashi.co.jp/> ツイッターは@akashishoten



おすすめの一冊

時間の解体新書 ——手話と産みの空間ではじめる

田中さをり (著)
出版社：明石書店
ISBN：9784750352763
定価：1,980 円



これまで哲学は主に音声や文字によって表わされる言語で展開されてきた。また、その担い手の多くは、男性であった。これにより、哲学が失ってきたことも少なくないのではないかと——。自身の手話習得および育児の体験を踏まえ、マクタガートの時間論や生と死の問題を、ろう者(手話)と産む性の視点から考察することを通して、言語モードとジェンダーの制約から人間の定義と哲学そのものを拡張する試み。解説・森岡正博氏(哲学者、早稲田大学教授)。福岡伸一氏、渡邊十糸子氏、三木那由他氏の書評でも話題の1冊です。

● *じふん堂* で紹介した記事と本



日本人はなぜレイシズム(人種差別主義)に向き合えないのか? ——『ホワイティ・フラジリティ』の射程



『ホワイティ・フラジリティ 私たちはなぜレイシズムに向き合えないのか?』

ロビン・ディアンジェロ (著)、貴堂嘉之 (監訳)、上田勢子 (訳)

ISBN：9784750352060

あさくらしょてん

朝倉書店



出版社の朝倉書店です。創業1929年。理学・工学・医学・農学・人文科学・家政学などの学術専門書、および事典・辞典・ハンドブック、大学教科書を出版しています。



おすすめの一冊

地図の事典

監修：日本地図学会
編集代表：森田喬 (法政大学名誉教授)
出版社：朝倉書店
ISBN：9784254163582 定価：19,800 円



原始の絵画的空間表現から21世紀のデジタルマップまで——。情報のデジタル化によってますます多様化する「地図」の概念を新しく捉え直し、その全体像を提示するオールカラーの総合事典です。「地図を知る」「地図を作る」「地図を使う」の3部構成で、専門家はもとより、愛好家・一般読者も読んで楽しめる魅力的なトピックスを満載しました。年表、地図投影法分類表、関連学協会一覧、地図入手先など、巻末付録も充実しています。

● *じふん堂* で紹介した記事と本



食品のカビは有害か? ~気がつかずに食べても大丈夫?



『カビのはなし ミクロな隣人のサイエンス』

カビ相談センター (監修)、高鳥浩介、久米田裕子 (編集)

ISBN：9784254640427

げんきしょぼう

幻戯書房

幻戯書房

幻戯書房は歌人で作家の辺見じゅんが、父であり、角川書店の創立者である角川源義の創業の精神を受け継ぎ、2002年に設立した出版社。後世に受け継ぐべき出版物を少数ながらも装幀、造本、また流通といった出版文化全体に目配りした出版活動を文芸書を中心に続けています。



おすすめの一冊

文学問題 (F + f) +

山本貴光 (著)

出版社：幻戯書房

ISBN：9784864881357

定価：3,960円



100年以上前、文学は「F + f」と喝破した夏目漱石の『文学論』は、今日の文学の可能性を考えるアイデアの宝庫だった——本書は、難解と敬遠される漱石『文学論』の骨子を解説。世界文学の事例を通して、文学とは何であって何でないかが誰でも理解できる類例なき文学の問題集です。文学理論、哲学思想、メディア論など最新の学術知見から「来たるべき文学論」を考察し、人文学の到達、課題、可能性を考える本にもなっています。

● *じふん堂* で紹介した記事と本



デンマーク詩人が紡いだブレパラートの中の言葉——
ふたたび世界に出逢うまで



『ニルス・リューネ』(ルリユール叢書)

イェンス・ピーター・ヤコブセン (著)、奥山裕介 (訳)

ISBN：9784864882200

さくひんしゃ

作品社



1979年1月創立。中上健次『水の女』、山田太一『沿線地図』を処女出版。軽薄短小の時代に抗い、硬派であるが人文・日本文学・海外文学・芸術・随筆など幅広いジャンルで独創的出版物を刊行。第53回毎日出版文化賞を企画部門(日本の名随筆)で、第71回同賞を田川建三訳著『新約聖書訳と註全7巻(全8冊)』で受賞。



おすすめの一冊

うんこの博物学 糞尿から見る人類の文化と歴史

ミダス・デッケルス (著) / 山本規雄 (訳)

出版社：作品社

ISBN：9784861828218

定価：3,190円



排泄とは、生存の条件であり、嫌悪の対象であり、笑いのネタであり、そして秘密の快樂でもある。本書は、エジプトや中国の古代文明から現代までの、古今東西のトイレと後始末、排泄物処理の文化と歴史、さらに生理的メカニズムから、浣腸や食糞、さらにスカトロ・フェチまでを対象にし、文化的・歴史学的・環境学的・生理学的な博覧強記をもって、ユーモアを交えながら、膨大な図版とともに「人類と糞尿」という壮大なるタブーに迫ったものである。

● *じふん堂* で紹介した記事と本



思想家・柄谷行人が、コロナ禍で揺れる世界に語る、
新たな社会変革の可能性



『ニュー・アソシエーションスト宣言』

柄谷行人 (著)

ISBN：9784861828355

しゅんじゅうしゃ

春秋社



1918年創業。わが国初の「トルストイ全集」をはじめ、宗教・思想・哲学・心理・医療・音楽等の専門書の刊行をつづけ今日に至っている。HP: www.shunjusha.co.jp Twitter: @shunjusha 編集部 Instagram: @shunjusha_ed web 春秋 はるとあき: haruaki.shunjusha.co.jp メールマガジン配信中 登録は無料です。www.shunjusha.co.jp/company/cc1920.html



おすすめの一冊

医療民俗学序説

畑中 章宏 (著)
出版社: 春秋社
ISBN: 9784393291368
定価: 2,200 円



民俗学的視点で厄災と日本人の関係を考察し、その諸相から現代的価値をあぶり出す、ポストコロナを見据えた今こそ読むべき一冊。科学の恩恵に与る以前、民間信仰を恃みに自然災害や疫病などの厄災に対応してきたわれわれの民俗的な記憶より明らかになる、今日そしてこの先の新たな脅威へのふるまい、あり方とは。祈りやまじない、各地の伝承、風習から、著者の探究する「災害民俗学」の新たな系譜として「民俗の医療」の手がかりを探る。

● *じふんどう* で紹介した記事と本



自律神経系から取り戻す心身そして社会とのつながり
画期的な「ポリヴェーガル理論」とは



『ポリヴェーガル理論入門 心身に変革をおこす「安全」と「絆」』

ステファン・W・ポージェス (著)、花丘ちぐさ (訳)

ISBN: 9784393365540

しょうぶんしゃ

晶文社



東京・神保町にある、文学・芸術・人文を中心とした書籍と各種学校案内書を発行する出版社です。犀のマークが目印です。HP: https://www.shobunsha.co.jp/ Twitter: @shobunsha



おすすめの一冊

土偶を読む——130年間解かれなかった縄文神話の謎

竹倉史人 (著)
出版社: 晶文社
ISBN: 9784794972613
定価: 1,870 円



大発見! 土偶とは——「植物&貝類をかたどった精霊像」だった! これまで、一般的な土偶の正体として、「妊娠女性をかたどったもの」「病気の身代わり」「狩猟の成功を祈願する対象」「宇宙人」……などの説が展開された。が、実はいずれも確証が得られていない。本書は気鋭の研究者が、「考古学×イコノロジー研究」から日本考古学史上最大の謎のひとつを読み解く。第43回「サントリー学芸賞 社会・風俗部門」受賞!

● *じふんどう* で紹介した記事と本



AIには代行できない直感に導かれる仕事 内田樹編
『ポストコロナ期を生きるきみたちへ』より



『ポストコロナ期を生きるきみたちへ』

10代のきみに向けて、5世代20名の識者が伝える知的刺激と希望に満ちたメッセージ集

ISBN: 9784794970428

そうげんしゃ

創元社



1892年創業。大阪は御堂筋の近く、本町と淀屋橋の間にある出版社です。東京支店は神保町。HPは <https://www.sogensha.co.jp> ツイッターアカウントは @sogensha 最近、公式キャラクター・つじのソジャーが誕生しました。



おすすめの1冊

ぼく自身のノオト

ヒュー・ブレイサー (著) / きたやまおさむ (訳)

出版社：創元社

ISBN：9784422930893

定価：1760円



500万部突破の世界的名著が40年を超えて待望の復刊。ひとりの青年が生き方を確立する方法を探し求める心理エッセイ。訳者は精神科医でザ・フォーク・クルセダーズの北山修氏。推薦者・山崎まどか氏の言葉に本書の魅力が集約されています。「13歳から20歳にかけて、この本を何度も読み返し、友だちや好きな人のみんなに貸した。どのページのどの言葉も覚えている。久しぶりに手にとって、これはもしかして、いま必要とされている言葉ではないかと考える。北山修の名訳だ。」

● *じふん堂* で紹介した記事



世界で500万部突破『ぼく自身のノオト』約40年ぶりに復刊 BOT 管理人が語る〈奇蹟〉と訳者・北山修



中世ヨーロッパから続く伝統「紋章」のデザインには意味がある 豊富な写真と図で読み解く『【図説】紋章学事典』



ちくましょぼう

筑摩書房



東京のひがし・蔵前から注目の人文書をピックアップ！ 内容紹介やレビュー、著者インタビュー、イベントレポート、コラムなど、とびっきりの情報をお届けします。HP：www.chikumashobo.co.jp/ Twitter：@chikumashobo



おすすめの1冊

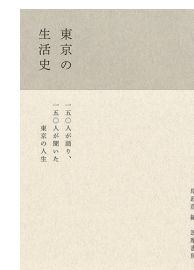
東京の生活史

岸政彦 (編)

出版社：筑摩書房

ISBN：9784480816832

定価：4,620円



たまたま集まった聞き手の方が、たまたま一人の知り合いに声をかけ、その生活史を聞く。本書は、東京で生活している／していた150人が語った人生を、解説も説明もつけずただフラットに並べただけという前代未聞の試みから生まれた一冊です。上下二段組み、1200ページ超のボリュームながら刊行後忽ち重版となり、現在5刷1万7000部となる反響を呼んでいます。ただの偶然で集められた、それぞれに必然的な語り。ここにある150万字を読んでいるうちに、偶然と必然によって人びとが隣り合っている東京の成り立ちそのものが再現されていくことに気付くはずですよ。

● *じふん堂* で紹介した記事と本



中国で誕生が確認された「ゲノム編集ベビー」いったい何が問題なのか 『ゲノム編集の光と闇』より



『ゲノム編集の光と闇 人類の未来に何をもたらすか』

青野由利 (著)

ISBN：9784480072023

日本実業出版社



1950年創業。ビジネス書・経営実務書を中心に、哲学・思想、心理、歴史、教育など人文書のジャンルでも面白くてためになる書籍を多数刊行。本社は大阪市、東京本部オフィスは市ヶ谷のお濠端にあります。HP：<https://www.njg.co.jp/> Twitter：[@NJG_pr](https://twitter.com/NJG_pr)



おすすめの一冊

マンガ人類学講義

奥野克巳 + MOSA (著)
出版社：日本実業出版社
ISBN：9784534058102
定価：1,980円



ボルネオの森の民プナンは、働かず、学校にも行かない。だから過労死にも不登校にも縁がない。ただ生きるために狩りをして、また動物と語りながら一日を過ごす。そんな彼らと生活をともにし「人間的なものの根源」を探った人類学者・奥野克巳が、気鋭のマンガ家・MOSAとタッグを組み挑戦したのが、「民族誌マンガ」という試みだった。私たちの常識を根本から揺さぶるプナンの生き方を、テキストよりもイメージしやすいマンガという形式で表現した本書は、読者を「自由闊達で開かれた人類学」へ誘います。

● じふん堂で紹介した記事と本



“天才IT相”オードリー・タンの母が創った「子どもが主体的に学ぶ学園」のユニークさ



『子どもの才能を引き出す天才IT相オードリー・タンを育てた母の教育メソッド』
李雅卿 (著)、ワン・チャイ (訳)
ISBN：9784534058485

白水社



1915年創立の出版社です。哲学・歴史・文学・芸術・語学などの書籍が中心。ホームページは www.hakusuisha.co.jp ツイッターアカウントは @hakusuisha



おすすめの一冊

私はイスラム教徒でフェミニスト

ナディア・エル・ブガ、ヴィクトリア・ゲラン (著) / 中村富美子 (訳)
出版社：白水社
ISBN：9784560098592
定価：2,420円



セックスやジェンダーの問題に悩む人に、コーランにもとづく「服従」しないための療法をおすすめします！ イスラムの聖典をひもときながら男女平等を説き、セクシュアリティの封印を解くこの本は、多様性を抱えた患者の生に寄りそう、フランスで人気の性科学医（セクソログ）による自伝的エッセイです。「女は男の服であり、男は女の服である。」という聖典の言葉をもとに、装丁は名久井直子さんに手がけていただきました。日本語版への特別メッセージ「コロナ禍を経て、伝えたいこと。」も収録。

● じふん堂で紹介した記事と本



なぜ「女性哲学者」は非業の死をとげたか 『ヒュパティア 後期ローマ帝国の女性知識人』



『ヒュパティア 後期ローマ帝国の女性知識人』
エドワード・J. ワッツ (著)、中西恭子 (訳)
ISBN：9784560097946

平凡社



1914年創業。1931年『大百科事典』を編纂、辞典の出版社としての礎を築く一方、本格的グラフィック誌『太陽』を創刊するなど多様な出版物を生み、今日に至る。HP:www.heibonsha.co.jp twitter:@heibonshatoday



おすすめの1冊

中世ヨーロッパ——ファクトとフィクション

ウィンストン・ブラック（著）／大貴俊夫：監訳、内川勇太、成川岳大、仲田公輔、梶原洋一、白川太郎、三浦麻美、前田星、加賀沙亜羅（訳）
出版社：平凡社

ISBN：9784582447132 定価：3,520円



中世ヨーロッパは古代ローマとイタリア・ルネサンスに挟まれた「暗黒の」千年紀、文化と文明が失われた停滞期だったのか？ 狡猾なカトリック教会の言いなりで、迷信を好んで科学を拒み、野蛮で不潔だった？ 騎士が華麗に戦い、魔法と妖精が出てくるおとぎの世界？ 本書は中世ヨーロッパに関する11のフィクションをとりあげ、私たちの中世観がどのように作られてきたのか、実際どうだったのかを、豊富な一次史料とともに提示する。

● じぶん堂で紹介した記事と本



半藤一利さんは、なぜ「墨子を読みなさい」と言い遺したのか



『墨子よみがえる “非戦” への奮闘努力のために』

半藤一利（著）

ISBN：9784582769197

書店員さんのおすすめ

じぶん堂では、紀伊國屋書店の「じんぶん大賞」選考委員、ジュンク堂書店の人文書担当者など人文書に詳しい書店員さんのコラムを連載中です。



紀伊國屋書店

ウンコはどこから来て、どこへ行くのか 人糞地理学とはじめ

湯澤規子（著）
出版社：筑摩書房
ISBN：9784480073303 定価：924円

かつての日本人にとって「うんこ」は、肥料として現物取引され、単なる汚物ではなかった。近代以降、徐々に汚物とされていく過程が本書では克明に描かれる。日本での「うんこ」の利用に対する西欧の認識がいかに相対的であるかが興味深い。（新宿本店：東二町順也）

チッソは私であった：水俣病の思想

緒方正人（著）
出版社：河出書房新社
ISBN：9784309417844 定価：1,210円

熊本県芦北町で漁業を営む著者の、水俣病に対する固有の向き合い方が綴られた一冊。一人の「個」として水俣病と向き合った時、「チッソは私であった」かもしれないという想像力が、著者を被害者と加害者の対立構造の外へと連れ出していく。（横浜店：中島宏樹）

はたらかないで、たらふく食べたい 増補版——「生の負債」からの解放宣言

栗原康（著）
出版社：筑摩書房
ISBN：9784480437204 定価：902円

本書を読むうちに、労働とはひとつの「価値観」だと気づかされた。労働を美德とする精神が誰しもどこかにあるけれど、性別や国籍と同じように、生き方、働き方にも多様性があると教えてくれた一冊だ。（ゆめタウン下松店：池田匡隆）

日本経済学新論 渋沢栄一から下村治まで

中野剛志（著）
出版社：筑摩書房
ISBN：9784480073143 定価：1,320円

渋沢栄一・高橋是清・下村治ら実務家の経済思想に焦点を当てた力作で、日本近代社会思想史としても読める。「輸入学問」である経済学を時々の現状に即して深く、「経世済民」の方途を模索する実務家の姿を著者と追っていくのは実にスリリング。（ゆめタウン徳島店：大藪宏一）

西洋美術とレイシズム

岡田温司（著）
出版社：筑摩書房
ISBN：9784480683908 定価：1,100円

キリスト教美術で描かれてきた人種主義・人種差別的な題材を、膨大な例とともに紐解いた一冊。二千年に及ぶ長い歴史の中で表現されてきたイメージが、人々の意識に水面下で影響を与えていることがわかる。（シンガポール本店：藤本浩介）

オリンピック 反対する側の論理——東京・パリ・ロスをつなぐ世界の反対運動

ジュールズ・ボイコフ（著）／井谷聡子・橋岡哲・小笠原博毅（監訳） 出版社：作品社
ISBN：9784861828461 定価：2,970円

著者は元プロ・サッカー選手で、オリンピックのアメリカ代表メンバー。コロナ禍と関係なく、オリンピックに反対している世界各地の運動やその論理を、綿密な調査をもとに明らかにした一冊。（学術和書部：松野享一）

お好み焼きの物語 執念の調査が解き明かす新戦前史

近代食文化研究会（著）
出版社：新紀元社
ISBN：9784775316672 定価：2,200円

研究対象として手薄だった「お好み焼き」を膨大な資料にあたって書き上げた労作。馴染みの料理にこれほどの歴史があったとは。広島出身の評者も思わず「嘘じゃろ、知らなかったわ」。（新宿本店：生武正基）

ブルシット・ジョブ クソどうでもいい仕事の理論

デヴィッド・グレーバー（著）／酒井隆史、芳賀達彦、森田和樹（訳） 出版社：岩波書店
ISBN：9784000614139 定価：4,070円

克明な議論で「仕事」の概念史まで遡る話題書。「ブルシット」と言いたくなる仕事を生み出す理不尽な支配関係からお互いに解放放たれるために、本書がより広く読まれることを願う。（学術洋書部：野間健司）

西暦一〇〇〇年 グローバリゼーションの誕生

ヴァレリー・ハンセン (著) / 赤根洋子 (訳)
出版社: 文藝春秋
ISBN: 9784163913704 定価: 2,420 円

ある場所で起きたことが遠く離れた別の地域に影響を与える。この現象が地球規模に及んだのが西暦1000年の時代だった。海図も羅針盤も持たず広大な海に漕ぎ出した人類の偉業に思いを馳せる一冊。(本町店: 森永達三)

現代手芸考 ものづくりの意味を問い直す

上羽陽子、山崎明子 (編著)
出版社: フィルムアート社
ISBN: 9784845919116 定価: 2,640 円

近年のハンドメイドブームは、テクノロジーの進歩により素材供給や流通で新たな市場が生まれ、新しい価値を求める消費者の意識と合致したことで出てきたという。現代の手芸も「生産」と「消費」という側面を持つことに改めて気づかされる。(札幌本店: 林下沙代)

存在しない女たち: 男性優位の世界にひそむ見せかけのファクトを暴く

キャロライン・クリアド = ベレス (著) / 神崎朗子 (訳)
出版社: 河出書房新社
ISBN: 9784309249834 定価: 2,970 円

女性が日々直面する不都合な事実を事例やデータをもって明らかにする一冊。日常の隅から隅まで、女性が「目に見えない」存在とされているのはなぜか。ジェンダー・ギャップに関する事実に向き合うことをいい加減始めなければいけない。(京都営業部: 高部知史)

お隣りのイスラーム 日本に暮らすムスリムに会いに行く

森まゆみ (著)
出版社: 紀伊國屋書店
ISBN: 9784314011556 定価: 1,870 円

日本に暮らすイスラーム教徒へインタビューを行い、ライフストーリーを記録した本。生活様式やイスラームへの向き合いかたもさまざまで、職業も幅広い。「ムスリムにもいろいろな考え方の人がいる」という当たり前の事実気づかせてくれる。(デジタル情報営業部: 花田葉月)

ギリシア哲学史

納富信留 (著)
出版社: 筑摩書房
ISBN: 9784480847522 定価: 4,840 円

本書の特徴は哲学者個人の列伝体であること。学派や伝統が前面に出るインドや中国の思想との相違を浮き彫りにし、西洋に独特な側面を強調することに成功しています。人物像や後世への影響も分かりやすく、読み通す価値のある確かな一冊です。(札幌本店・小山大樹)

マザリング 現代の母なる場所

中村佑子 (著)
出版社: 集英社
ISBN: 9784087717341 定価: 2,420 円

妊娠出産期の声をすくい上げ、現代社会の「母」の定義を解体しようとしてみた一冊。誰もが持っているであろう「母性」は、この世の中で生きていくうえで大切なものだ。子どもの有無、性別、年齢を問わず、多くの人に著者の思いが届いて欲しい。(学術和書部: 津畑優子)

ジュンク堂書店

働くことの人類学【活字版】 仕事と自由をめぐる8つの対話

松村圭一郎 + コクヨ野外学習センター (編)
出版社: 黒鳥社
ISBN: 9784991126062 定価: 2,200 円

近年、アナキズムは人類学と結びつけて語られることも多い。本書はアナキズムを論じた本ではないが、人類学者たちが語る、世界各地に根付く働き方や暮らし方にはアナキーな思考が非常に大きく関わっているように感じられた。(池袋本店: 岡野まゆ)

感情の哲学入門講義

源河亨 (著)
出版社: 慶応義塾大学出版会
ISBN: 9784766427196 定価: 2,200 円

冒頭だけで頭が整理された気がして満足感が得られる、入門書として徹底的な在り方がすごい。つい感情的になってしまったと思う今までのあれこれがどういうしくみだったのか、時計を分解してしくみを知るような感覚でわかった気がした。(池袋本店: 森暁子)

ふだんづかひの倫理学

平尾昌弘 (著)
出版社: 晶文社
ISBN: 9784794970381 定価: 1,980 円

本書によると、倫理学の仕事とはこの世界に流布するさまざまな倫理や道徳を整理すること。倫理学こそが自由に向かっていくための、私たちの生活に寄り添う学問なのかもしれないと思うきっかけをくれた一冊。(池袋本店: 井手ゆみこ)